

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271400404
法人名	雲南福祉サービス株式会社
事業所名	グループホーム 加茂の郷
所在地 (電話番号)	雲南市加茂町南加茂706-4 (電話) 0854-49-8426

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成20年9月19日	評価確定日	平成20年11月2日

## 【情報提供票より】(20年 9月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 27 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 15 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	13.8 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1340 円	

### (4) 利用者の概要( 9月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立雲南総合病院、奥出雲コスモ病院、清水医院、山本歯科医院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から入った小高い丘の中腹に位置し、山間の緑や田畑など、身近に四季を感じることのできる環境に囲まれた場所にある。木造瓦葺きの平屋の外観と、木材を多く用いた日本調の建物の内部は、使いなれた家具等が置かれ、両ユニットにはそのまま庭にできるようなったウッドデッキが設置されており、より一般家庭に近い、落ち着いた生活ができるといった印象を受けるホームである。地域交流においても、ホームで納涼祭を開催し、地元住民を招いたり、地元のイベントに利用者が参加するなど、関係強化を図り、地域に根ざしたホーム作り積極的に取り組んでいる。  
利用者の行動や笑顔、穏やかな表情をはじめ、職員の聞き取りや対応などからも、ホームの基本理念に立脚した、利用者を第一に考えたサービス提供がなされていることが確認できた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題であった重度化や終末期に向けた方針の共有については、改善に向けて積極的な取り組みがみられ、問題は見受けられない。入浴については、職員体制の問題は考えられるが、夜間入浴等に関して、一度には困難でも出来る範囲からの取り組み、より良い入浴の提供が望まれる。プライバシーの確保の徹底については、“慣れ”から生じる不適切な声掛けが稀にあるものの、職員はそのことを意識していることから早急に改善されるものと考えられる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員共に評価の意義を十分に理解しており、運営推進会議なども含め、定例の事業所内の会議において協議・検討、目線合わせがなされており、これを基に事業所の質の向上に取り組もうとする積極的な姿勢が窺える。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>4ヶ月に1回定期的に開催されており、会議では、ホームの運営状況や活動状況等が報告され、協議・検討がなされている。外部評価結果も報告されており、出された意見は、ホームで話し合いがなされ、運営、サービス改善に生かすよう取り組まれており、次期会議で経過報告するなどし、会議を質の向上に生かそうとする姿勢が見てとれる。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月ホーム便りの近況報告に加え、利用者の担当職員のメッセージも添え送られている。家族の来訪時には時間を設け報告や相談を行い、遠方の家族には電話で連絡を行うなど、それぞれに合った対応がなされ、家族から意見を出してもらいやすい体制が作られている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎月のホーム便りの地元への配布をはじめ、地域で開催される文化祭や運動会へ参加するなどし、地元住民と交流を持つよう努めている。また利用者による地域貢献の機会を設けたり、ホームの行事に地域住民を招聘するなど、地域との連携強化に関して積極的な取り組み姿勢が見られる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日常の触れ合いや関わり合いを通して、利用者の思いや意向、希望を汲み取り、それぞれのふれあいを大切にし、明るく楽しい生活を送っていただくよう、ホーム独自の理念を創りあげ明示している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	普段の会議やミーティングにおいて、理念そのものに関して話し合うことはないものの、常に理念を具現化するために、ホームのケアはどうあるべきかといった理念に沿ったテーマでの協議、検討がなされ、理念の共有化が図られている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所(民家)が近くになく、交流が図り難い環境であるが、隣接の畑の持主とは会話もあり、野菜の差し入れもある。また地域の文化祭や運動会への参加もあり、ホーム便りも毎月配布されており、地域とのつきあいを深めていこうとする取り組みがなされている。ホームの庭の草刈り等も地域住民との協同でなされていた。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、評価を実施する意義を理解しており、訪問の当日も、評価を通して事業所のサービスの質をより良くしていこうとする積極的な姿勢、具体的な改善に向けての取り組みも見受けられた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は4ヶ月に1度定期的に行われ、ホームの運営・活動状況、外部評価結果等が報告され、またサービスの提供等に関して協議・検討がなされている。委員会から出された意見は、必要に応じて会議で取り上げ、ホームの運営、サービス改善に生かす取り組みがなされ、経過報告もなされている。		

島根県 グループホーム加茂の郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議にも、市の担当職員の参加があり、必要時には管理者が市役所に出向き相談するなど、問題や疑問は都度解決するように取り組まれており、連携は図られている		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームの行事や利用者の日々の生活を写した写真等といった活動状況に併せ、居室担当者が個々の入居者ごとにメッセージを記載したホーム便りが毎月配布されている。また、面会時には利用者の状況報告に加え、状態急変時等といった必要時には都度電話にて報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には利用者の状況報告を行うなどし、コミュニケーションを図り、関係構築を進めつつ、家族の意見や意向を汲み取るような取り組みがなされ、出された苦情・意見等は苦情受付簿に記載し、職員会議で協議検討がなされ、ホームの質の向上に結びつける取り組みがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職に伴うその後の内部体制に関しては、その都度検討がなされており、新任の職員に対しては、1ヶ月の試用期間を設けるなどし、できる限り利用者への負担がかからないような措置がとられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会へはできる限り参加するといったホームの方針であり、全職員を代表しての研修参加であることを意識づけ、復命研修を通し研修で得たスキルを全員で共有化する取り組みや、現場での介護実践に生かす取り組みがなされている。一般従業者のヒアリングからも積極的な研修への取り組みが窺えた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	しまね小規模ケア連絡会、雲南地区グループホーム部会へは積極的に参加しており、また他の団体の各種研修会も併せ、研修会で知り合った他事業所の職員と情報交換など含めて交流を続けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できる限り施設見学をして貰ってから入居を勧め、止むを得ず入居を急ぐような場合には、家族等に協力を求め、混乱を最小限にとどめ、スムーズにホームでの生活に馴染んでもらえるような取り組みがなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や園芸、調理など、日々の生活の中で利用者それぞれが役割を持ち、利用者主体のゆっくりとした時間の中で、穏やかで暖かい生活が送れるよう、全職員が意識統一を図りケア提供がなされている。訪問調査日のケアや、職員のヒアリングからもそのことが窺えた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の立場に立ったサービス提供、その人らしい生活を支援するという理念を掲げ、生活暦を把握し、利用者に寄り添うことで利用者の思いや意向を捉え、利用者に職員と利用者が共に支え合うといった関係の中でケアを提供していこうとする姿勢が窺えた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人、家族の意向を取り入れ、担当者がモニタリングを行い、ケアカンファレンスで検討・協議した後、職員会議を通して共有化が図られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの介護計画の期間に応じた見直しとともに、利用者の状況に変化が見られた場合は都度見直しを行うなど、柔軟な対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族等の状況に併せ、通院や送迎等必要な支援を行っている。受診に関しては、家族の状況に配慮しホーム対応が多く、場合によっては家族と同行の受診も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の他、利用者本人、家族等の希望に添い、かかりつけ医でも医療が受けられるよう支援がなされている。また必要に応じて往診を依頼するなど、利用者が適切な医療を受けられるよう医療機関との連携も図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	各ユニットに看護師も配置されており、医療連携体制加算が取られている。重度化や終末期に向けての対応は、個々の状況に応じかかりつけ医も交え、家族等と将来の方向性等についての話し合いがなされ、内容に関してはケアカンファレンス等を通して、全職員での共有化が図られている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに配慮した声掛け、居室に入る時のノックなどといったことに関しては会議で話し合いがなされ、全般的には適切なケアがなされてはいるものの、利用者との長い付き合いから生じる“慣れ”から時として不適切な声掛けがなされている。個人情報に関してはきちんと管理がなされており問題はない。	○	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保していくことは、利用者の尊厳と権利を守るための必須条件であることから、常にプライドを大切にするケア提供が望まれる。加えて、個人情報の取り扱いについては新たな情報等の使用に当たっては都度同意を得るなど、今後も個人情報保護の徹底を図る取り組みに期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの利用者の活動にも、一人ひとりのペースに合わせ、能力等に応じた利用者主体のケア提供が見受けられ、ヒアリングからも、決して職員の都合に合わせる事のない柔軟なケア提供に対する心遣いが窺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好も捉え、一人ひとりの状態に合わせた食事形態で対応がなされている。できる範囲で調理や盛り付け、片付け等利用者に参加してもらえよう声掛けがなされ、職員も利用者と同じテーブルで食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者個々の希望に添い、午後1時頃より4時までの時間帯で一人ずつ入浴できるような体制が取られている。入浴拒否傾向の利用者に対しては、決して無理強いせず、様子を見ながら、声掛け等を工夫しながらできる限り入浴していただくよう支援している。	○	体制の問題は考えられるが、一般家庭を考えた時、夜間の入浴導入や、入浴回数等を再検討し、改善が求められる。夏季のシャワー浴も含め、一度には困難でも出来る範囲からの取り組み、より良い入浴の提供を望みたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、利用者の得意なことを発揮できる場を作り、日々の暮らしの中で役割を果たすことができ、楽しみ事が持て、気晴らしができるような支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物などといった外出希望に対しては、それぞれに合わせて対応している。また外出希望のない利用者に対しては、畑等に誘い出すなどし、ホームに閉じこもり気味にならないような支援がなされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、利用者、家族等とも自由に入出入りができる。また、外出傾向者など利用者個々の行動パターンを把握し、安全面での配慮を行っている。夜間については、防犯上の理由により施錠されているが、家族等の来訪対応は行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回避難訓練を行い、年2回は消防署の立会い・指導も受けている。また、地域住民の協力を得て、一昨年より合同での防災避難訓練も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取に関しては個々にアセスメントがなされ、利用者の状況に合わせた対応がなされている。摂取状況は記録票にその都度記録され、全職員で情報の共有がはかられており、加えて、定期的に管理栄養士による献立のチェックも行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を多く用いた日本的で落ち着いた共用空間である。各所に季節の花も置かれており、壁飾りなどにも季節感が感じられる。空気のよどみや嫌な臭気もなく、テレビの音や日光など、利用者にとって快適であるよう心配りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「生活の継続性」を重視し、家族の協力を得、利用者の家から使い慣れたテーブルや椅子といった家具、テレビや冷蔵庫の持ち込みもあって、利用者個々の希望にそった個性的で居心地のよい生活環境づくりがなされている。		